


平成22年度 高津区協働推進事業 事業評価書

番号	事業名	所管課	担当者（連絡先）
	「エコシティたかつ」推進事業（会議運営等）	地域振興課	相原（044-861-3147）

1 事業概要

対象者	区民全般		事業実施主体	「エコシティたかつ」推進会議	
目的及び内容	高津区における環境まちづくりの取組を総合的に展開できるよう、区内の各種施策の方向性を明確にした、「エコシティたかつ」推進方針を平成20年度に策定した。方針に位置づけたプロジェクトを、市民団体や区内企業、学校等と協働で推進する。				
事業形態	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input checked="" type="checkbox"/> その他（ ）委託先（アリスセンター）				
新規・継続	継続	開始時期	平成20年度	関連する事業局・事業内容	環境局、建設緑政局、まちづくり局、総務局、上下水道局
予算額	1,802,000(円)	決算額	1,788,481(円)	不用額	13,519(円)
不用の理由					

2 事業の成果

<p>(成果)</p> <p>「エコシティたかつ」推進会議を2回、市民会合を1回開催し、各プロジェクトの推進状況の確認や推進方法について検討すると共に、次年度以降の推進体制についても検討した。また、「エコシティたかつ」推進フォーラムを開催し、今年度の活動を報告すると共に、学校流域プロジェクトについて詳しく紹介した。さらに、推進会議の構成委員の参加を得ながら、中期的なプロジェクトの策定に向けて、流域の情報を加味したベースマップの作成に着手した。</p> <p>(成果物)</p> <p>「エコシティたかつ」推進事業2010年度概要版 1000部 「エコシティたかつ」推進事業2010年度報告書 50部</p>	 <p>(「エコシティたかつ」推進フォーラムの様子)</p>
--	--

3 事業評価

項目	コメント
事業内容の妥当性（必要性・公共性）	本事業は、実行計画の区計画の中で、基本政策Ⅳ 環境を守り自然と調和したまちづくりの事業として位置づけられているが、多様な媒体を利用した重層的な情報発信・共有、啓発イベント、モデル事業の実施等を、区民、町内会、学校等との協働で推進する必要性は高いと考えられる。
目標設定と達成度	「エコシティたかつ」推進会議を軸として、推進会議委員が積極的に事業に関わり、短期の12のプロジェクトを推進することができた。次年度は中期のプロジェクトが始まることになるが、より一層の住民参加と積極的な事業への関与を目指す。
事業の効率性と費用対効果	今年度は「エコシティたかつ」推進会議の実施のサポートを委託したが、委託先の事業への積極的なサポートは費用対効果が高いと考えられる。次年度もより積極的な住民参加を促すために、委託を予定している。
協働の視点	「エコシティたかつ」推進会議では、目的や情報の共有、役割分担、成果の振り返りを意識した会議・事業運営をしている。サポート委託のNPO法人との間でも、情報共有を計り、ルールに基づいた事業運営を実施している。
環境配慮への視点	本事業自体が環境への取組であり、地域レベルで緩和策、生物多様性、適応策を意識した取組みを行なう必要性は高いと考えられる。

4 事業の方向性

次年度以降の事業計画	今後の事業展望と課題	優先度
<input checked="" type="checkbox"/> 見直し・改善の上継続 <input type="checkbox"/> 終了を見越して継続する <input type="checkbox"/> 現状どおり <input type="checkbox"/> 終了する	本事業は、川崎市の実行計画に合わせて課題に整理や検討を行っており、昨年度までに短期プロジェクトを実施してきた。次年度からは中期プロジェクトが始まることとなり、短期プロジェクトからの継続事業と新たに始まる、プロジェクトを推進する。	A

優先度が A：非常に高い、B：高い、C：高いとはいえない、－：終了


平成22年度 高津区協働推進事業 事業評価書

番号	事業名	所管課	担当者（連絡先）
	「エコシティたかつ推進事業」（学校流域プロジェクト）	地域振興課・企画課	相原・星（044-861-3131）

1 事業概要

対象者	区民一般	事業実施主体	NPO 法人 鶴見川流域ネットワーク、高津区		
目的及び内容	学校にビオトープ（池や林など）や雨水利用施設などの、生きものや水循環について学ぶ場を作り、ビオトープの定期点検・修繕支援と定期的な環境学習支援、学校での雨水利用の促進などモデル的な取り組みを進めるとともに教職員向け学習会などを実施する。				
事業形態	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input checked="" type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> その他（ ）委託先（NPO 法人 鶴見川流域ネットワーク）				
新規・継続	継続	開始時期	平成20年度	関連する事業局・事業内容	環境局、教育委員会
予算額	992,000（円）	決算額	991,746（円）	不用額	254（円）
不用の理由					

2 事業の成果

<p>（成果・成果物）※イベントの場合には、会場・日時・天気・参加人数を記載</p> <p>5/13 梶ヶ谷小 6/7 久地小 7/12 西梶ヶ谷小 2/26 学校の教員向けに高津区独自の理念を伝えるため、学校流域プロジェクトをテーマとした「エコシティたかつ」推進フォーラムを開催した。</p>	 <p>(梶ヶ谷小の授業支援)</p>
---	---

3 事業評価

項目	コメント
事業内容の妥当性（必要性・公共性）	本事業は「エコシティたかつ」推進方針のリーディングプロジェクトである「学校流域プロジェクト」を事業化したものである。区内小学校で、生物多様性や温暖化適応策を考慮した学校ビオトープの整備、又それらを活用した環境学習を進めることは公共性が極めて高い。
目標設定と達成度	区内小学校への環境学習の継続実施支援（4校）と新規ビオトープ整備・管理支援4校を目標とした。環境学習支援は全ての学校で実施。新規整備は2校が完了、2校が23年度上期整備完了予定で調整を進めている。
事業の効率性と費用対効果	環境学習支援の専門的な部分については、NPO に委託している。その他については、担当職員と学校の教員などで役割分担して進めている。学校からは、PTA の参加も呼びかけており、費用対効果は高いと考える。
協働の視点	事業実施の NPO とは協働型事業のルール的基本的な考え方を踏まえて実施した。学校との協働については、授業実施前に打合せを重ね、学校側の不安を取り除いた上で実施した。参加の輪を広げるため、PTA の参加を呼びかけており、継続的に参加する保護者もいる。
環境配慮への視点	本事業は、「エコシティたかつ」推進方針に基づく「学校流域プロジェクト」を推進するための事業である。本事業の推進自体が「エコシティたかつ」の推進につながるのだが、3Rや節電などの緩和策的な視点のエコの取組も可能な限り進めていく。

4 事業の方向性

次年度以降の事業計画	今後の事業展望と課題	優先度
<input checked="" type="checkbox"/> 見直し・改善の上継続 <input type="checkbox"/> 終了を見越して継続する <input type="checkbox"/> 現状どおり <input type="checkbox"/> 終了する	「学校流域プロジェクト」は、「エコシティたかつ」の中期プロジェクトの核として取り組む予定であり、第3期実行計画にも掲載している事業であるので、見直し・改善を重ねながら区内15小学校全校での実施を目指し継続していく。	A

優先度が A：非常に高い、B：高い、C：高いとはいえない、-：終了


平成22年度 高津区協働推進事業 事業評価書

番号	事業名	所管課	担当者（連絡先）
	「エコシティたかつ推進事業」(各種プロジェクト)	企画課	星（044-861-3131）

1 事業概要

対象者	区民全般		事業実施主体	「エコシティたかつ」推進会議		
目的及び内容	地域からの地球温暖化対策を進めるため、「エコシティたかつ」推進方針に基づくプロジェクトを通年で実施する。具体的には、普及啓発活動としての「たかつエコ・エネライフコンクール」、緑のカーテン事業、エコシティホール化、雨水利用の促進などのプロジェクトを実施した。					
事業形態	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> その他（ ）委託先（NPO 法人まちづくり情報センターかながわ）					
新規・継続	継続	開始時期	平成20年度	関連する事業局・事業内容	環境局、建設緑政局	
予算額	(円)	決算額	(円)	不用額	(円)	
不用の理由						

2 事業の成果

(成果・成果物) ※イベントの場合には、会場・日時・天気・参加人数を記載 第2回「たかつエコ・エネライフコンクール」 表彰式 日時 平成22年11月7日(日) 13時～17時 会場 高津市民館 大会議室 天気：晴れ 参加人数 約70人	 <p>(エコ・エネライフコンクール)</p>
---	---

3 事業評価

項目	コメント
事業内容の妥当性 (必要性・公共性)	本事業は、実行計画の区計画の中で、基本政策IV 環境を守り自然と調和したまちづくりの事業として位置づけられている。地域資源を活用し、地域から地球温暖化に取り組むことは、区民と協働し区役所が実施する必要性は高いと考える。
目標設定と達成度	「エコシティたかつ」推進方針の考え方を多くの区民に理解してもらうこと、推進会議を軸として地域の様々な主体が連携して実施することを目標とし、委員が各プロジェクトに積極的に関わった。今後はより一層の住民参加と積極的な事業への関与を目指す。
事業の効率性と費用対効果	専門的な技術を必要とする部分のみ NPO 法人に依頼し、それ以外は直営で実施。次年度も専門部分を除き直営の予定であり、費用対効果は高い。また、区内を中心とした企業からの協賛品等を得ていることと、事業(イベント)の統廃合を行なったことにより、効率性も高い。
協働の視点	「エコシティたかつ」推進会議は、各種団体からの推薦と公募委員、学識で組織され、多くの団体とネットワークを広げながら事業推進している。エコ・エネライフコンクールは、同推進会議と高津区区民会議の共催であり、多くの事業者の協賛・協力も得ることができた。
環境配慮への視点	本事業は、「エコシティたかつ」推進方針の短期プロジェクトにも位置づけられている。「エコ・エネライフコンクール」は、緩和策としての CO2 削減などの普及啓発としても有効であり、環境に配慮した生活様式を提案している。

4 事業の方向性

次年度以降の事業計画	今後の事業展望と課題	優先度
<input checked="" type="checkbox"/> 見直し・改善の上継続 <input type="checkbox"/> 終了を見越して継続する <input type="checkbox"/> 現状どおり <input type="checkbox"/> 終了する	「エコシティたかつ」推進事業は、緩和策・適応策・生物多様性の3つのバランスをとって推進していく。短期プロジェクトの蓄積の上に中期プロジェクトを上乗せしていくが、エコ・エネライフコンクールは手法、時期等の見直しが必要である。	A

優先度が A：非常に高い、B：高い、C：高いとはいえない、-：終了


平成22年度 高津区協働推進事業 事業評価書

番号	事業名	所管課	担当者（連絡先）
	「エコシティたかつ推進事業」（エコシティホールの整備）	企画課	久保（044-861-3131）

1 事業概要

対象者	区民一般		事業実施主体	NPO 法人 鶴見川流域ネットワーク、高津区	
目的及び内容	区役所庁舎を環境展示場「エコシティホール」とし、来庁者への環境教育の場とする。昨年度作成した「エコシティホール」ツアーマニュアルを活用し、視察者等の受入れを行う。また、区役所屋上に災害電源用「太陽光発電一体型逐電システム」を設置する。				
事業形態	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> その他（ ）委託先（NPO 法人 鶴見川流域ネットワーク）				
新規・継続	継続	開始時期	平成19年度	関連する事業局・事業内容	環境局、建設緑政局
予算額	緊急雇用創出事業臨時特例基金 (13,620,000 (円))	決算額	13,620,000 (円)	不用額	0 (円)
不用の理由					

2 事業の成果

<p>(成果)</p> <p>区役所に植栽されている植物や区役所内のビオトープへの水やり、雑草の手入れ等の維持・管理を行った。また、区役所屋上に設置した災害電源用「太陽光発電一体型逐電システム」を活用し、168名の来庁者に「エコシティホール」ツアーを行った。</p> <p>(成果物)</p> <p>エコシティホールマニュアル（第2版）20部 平成22年度「エコシティホール」ツアー見学者一覧（添付資料）</p>	 <p>(屋上に設置された太陽光発電パネル)</p>
--	--

3 事業評価

項目	コメント
事業内容の妥当性 (必要性・公共性)	本事業は、「エコシティたかつ」推進方針のリーディングプロジェクトの一つである。区役所庁舎を環境展示場「エコシティホール」とし、来庁者への環境教育の場とすることは、公共性が高い。また、再生可能エネルギーの利用促進と普及啓発を目的とした災害電源用「太陽光発電一体型逐電システム」の設置は、必要性が極めて高い。
目標設定と達成度	区役所屋上に設置した災害電源用「太陽光発電一体型逐電システム」を活用した「エコシティホール」ツアーを行い、これに伴いエコシティホールマニュアルを改訂することを目標とした。「太陽光発電一体型逐電システム」設置後、168名の来庁者に「エコシティホール」ツアーを行い、エコシティホールマニュアルの改訂も実施した。
事業の効率性と費用対効果	本事業は、平成22年度緊急雇用創出事業臨時特例基金により委託したNPOと協力して実施した。区役所庁内のビオトープ等の整備やエコシティホールマニュアルの改訂作業に、NPOの積極的なサポートあり、事業の効率性及び費用対効果は高いと考えられる。
協働の視点	事業実施にあたり、NPOと対等な意見交換の場を持ち、実施した。また、参加の輪を広げるため、様々な方へ「エコシティホール」ツアーへの参加を呼びかけており、市民の参加もあった。
環境配慮への視点	本事業は、「エコシティたかつ」推進方針のリーディングプロジェクトの一つである。「エコシティたかつ」推進方針は、高津区で顕在化している自然・社会環境等に関する諸課題に対し、地域の多様な主体が協力して、総合的かつ多面的に取り組むための計画要素を含んだ基本的指針であるため、環境配慮の視点は、加味されている。

4 事業の方向性

次年度以降の事業計画	今後の事業展望と課題	優先度
<input checked="" type="checkbox"/> 見直し・改善の上継続 <input type="checkbox"/> 終了を見越して継続する <input type="checkbox"/> 現状どおり <input type="checkbox"/> 終了する	本事業は、「エコシティたかつ」の中期プロジェクトの一つとして位置付けられているので、見直し・改善を行い、更なる「エコシティホール」を活用した環境啓発を実施していく。	A

優先度が A：非常に高い、B：高い、C：高いとはいえない、-：終了


平成22年度 高津区協働推進事業 事業評価書

番号	事業名	所管課	担当者（連絡先）
	高津区二ヶ領用水竣工400年記念事業	企画課	星（044-861-3131）

1 事業概要

対象者	区民全般		事業実施主体	「全国円筒分水サミット 2011in たかつ」実行委員会		
目的及び内容	二ヶ領用水竣工400年記念事業の一環として、市内初の国登録有形文化財である「二ヶ領水久地円筒分水」の70年に着目し、まちの貴重な資源としての『円筒分水』の今後の保全活用、広く“水”との共生について、共に考える場として、「全国円筒分水サミット 2011in たかつ」を開催した。					
事業形態	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input checked="" type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> その他（ ） 委託先（石塚計画デザイン事務所）					
新規・継続	新規	開始時期	関連する事業局・事業内容	建設緑政局・二ヶ領用水竣工400年記念事業		
予算額	4,387,000（円）	決算額	4,200,000（円）	不用額	187,000（円）	
不用の理由	契約差金					

2 事業の成果

<p>（成果・成果物）※イベントの場合には、会場・日時・天気・参加人数を記載</p> <p>全国円筒分水サミット 2011in たかつ</p> <p>日時 平成23年1月22日（土） 13:30～17:00</p> <p>場所 高津市民館 12階大会議室 天候 晴れ</p> <p>参加人数 約400名</p> <p>エクスカージョン（翌日開催）約70名</p> <p>記念ブックレット（A5版 カラー40ページ 3,000部）を制作した。</p> <p>当日パンフレットは企業協賛により制作した。</p>	 <p>（サミット当日の様子）</p>
---	---

3 事業評価

項目	コメント
事業内容の妥当性（必要性・公共性）	久地円筒分水は二ヶ領用水の中間地点に位置する分水装置であり、水争いを解決した歴史的な背景や文化財的な価値から、二ヶ領用水の中でもシンボリック的存在である。二ヶ領用水の竣工400年記念事業として、円筒分水に焦点を当て、区民主体で地域資源としての再評価を行うことは、時機的に妥当と考える。
目標設定と達成度	記念シンポジウムには定員（300名）を超える約400名の来場があった。写真展への来場者数は正確には数えられないが、市民館のウォールギャラリーと区役所入口横で実施したため、相当数に上るとと思われる。サミットや関連イベントは多数のメディアにも取り上げられ、地域資源としての認知度も高まった。
事業の効率性と費用対効果	実行委員会を形成し、区民主体で事業を企画運営し、団体・事業者からも多くの協力が得られたため、予算以上の大きな効果が得られた。専門性の高い部分はコンサルタントに委託したので事業全体としての効率性も確保できたと考える。
協働の視点	円筒分水サミットの企画自体が区民の発案で生まれたものであり、事業の企画から実施まで一貫して区民協働の手法で行われた。また、実行委員会組織とは別に、高津区まちづくり協議会等区内団体の協力も得て事業をスムーズに実施することができた。
環境配慮への視点	「環境用水」としての二ヶ領用水や「久地円筒分水」の保全・活用のあり方を考える場とすることで、今後の環境まちづくりをととも考える場を提供したと言える。事前に「円筒分水」のクリーンアップ活動を実施するなど、環境に配慮した事業になったと言える。

4 事業の方向性

次年度以降の事業計画	今後の事業展望と課題	優先度
<input type="checkbox"/> 見直し・改善の上継続 <input type="checkbox"/> 終了を見越して継続する <input type="checkbox"/> 現状どおり <input checked="" type="checkbox"/> 終了する	<p>全市的なプロジェクトである「二ヶ領用水400年記念事業」の高津区企画として実施した本事業は終了となるが、引き続き、久地円筒分水の地域資源としての保全活用を進めていく。また、事業を通じて形成された参加地域間のネットワークを活かし、第2回の「全国円筒分水サミット」開催の可能性も探っていく。</p>	—

優先度が A：非常に高い、B：高い、C：高いとはいえない、—：終了


平成22年度 高津区協働推進事業 事業評価書

番号	事業名	所管課	担当者（連絡先）
	大山街道周辺整備活性化事業（委託費）	地域振興課	西倉（044-861-3134）

1 事業概要

対象者	区民全般		事業実施主体	高津区			
目的及び内容	区の課題の一つとして、高津大山街道及びその周辺に残っている歴史的・文化的な資源を保全・活用するため、行政計画として策定した「高津大山街道マスタープラン」を推進し、魅力的な空間創造と計画的、総合的な地域活性化のための取組をアクションフォーラムを中心として推進する。						
事業形態	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input checked="" type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> その他（ ）委託先（株式会社 石塚計画デザイン事務所）						
新規・継続	継続	開始時期	H21年度	関連する事業局・事業内容	まちづくり局景観・まちづくり支援課		
予算額	4,799,000（円）		決算額	4,793,250（円）		不用額	5,750（円）
不用の理由							

2 事業の成果

（成果・成果物）※イベントの場合には、会場・日時・天気・参加人数を記載 ・大山みちまちウィークの開催 大山街道ふるさと館、11月7日（日）～14日（日）、延べ1,000人以上参加 （成果物） 大山街道アクション通信第5号～第7号を発行し、溝口・二子地区の13町会に回覧するとともに、区民に配布した。 携帯サイト活用ハンドブックの発行及び大山みちまちマップの増刷を行い、区民に配布した。	（写真）  （大山街道ドキドキツアーの様子）
---	--

3 事業評価

項目	コメント
事業内容の妥当性（必要性・公共性）	大山街道は、区民祭や大山街道フェスタで多くの人が賑わう高津区のシンボルロード的存在であるため、活性化に寄与するマスタープランの推進は、アクションフォーラムが自立し軌道に乗るまでは市が事業を実施する必要性・公共性がある。
目標設定と達成度	蔵空き店舗活用モデル事業として大山みちまちウィークを開催し、拠点となる場づくりの実験やまちづくりの新たな担い手の発掘を行うことを目標とした。大山みちまちウィークでは、カフェやワークショップ等を通じて、まちづくりの拠点としてふるさと館の活用が見出せた。また、新たな担い手の発掘はあまり進んでいないので今後も積極的に行いたい。
事業の効率性と費用対効果	この事業は、マスタープランの推進やアクションフォーラムの自立化に向けて行政や区民にないノウハウとサポートを得るため、コンサルタントに全部委託をしている。委託先は、マスタープランの理解度や地域精通度も高く、事業を円滑かつ効率的に実施し、費用対効果も高い。
協働の視点	アクションフォーラムの自立化に向けて、区民の参加と協働の視点を意識し、事業を推進している。特に、アクションフォーラム参加者の発案で始まったミニコミ誌発行では、発行費用を協賛金で賄い、取材・編集・発行まで区民主体で行う体制が確立し、将来の自立的な体制への発展のモデルとなる成果もあがった。
環境配慮への視点	大山みちまちウィークでは、ゴミの分別を実施し、参加者にゴミの持ち帰りを呼びかけた。

4 事業の方向性

次年度以降の事業計画	今後の事業展望と課題	優先度
<input checked="" type="checkbox"/> 見直し・改善の上継続 <input type="checkbox"/> 終了を見越して継続する <input type="checkbox"/> 現状どおり <input type="checkbox"/> 終了する	第3期実行計画期間中にアクションフォーラムの将来の自立的な体制への道筋をつけることを目標に、これまで実施した事業も踏まえ、新たな担い手の発掘やコミュニティビジネスの検討なども行い、マスタープランを推進していく。特に、現在の大山街道の活性化に関わる中心人物の高齢化が進む中、新たな担い手の発掘は課題となっている。	A

優先度が A：非常に高い、B：高い、C：高いとはいえない、－：終了



平成22年度 高津区協働推進事業 事業評価書

番号	事業名	所管課	担当者（連絡先）
	大山街道周辺整備活性化事業（工事費）	企画課	亀山（044-861-3135）

1 事業概要

対象者	高津区民（特に大山街道沿道区民）		事業実施主体	高津区
目的及び内容	<p>本事業では、高津大山街道及びその周辺に残っている歴史的・文化的な地域資源を保全・活用するため策定した「高津大山街道マスタープラン（以下、MPという。）」を推進し、魅力的な空間創造と、計画的、総合的な地域活性化に取り組んでいる。とりわけキラリスポット整備工事では、MPで定めた重点地域（キラリスポット）の歩行空間の安全性確保及び良好な景観形成を目的としている。</p> <p>平成22年度は、キラリスポット1（栄橋交差点から溝口駅入口交差点までの区間（宗隆寺及び溝口神社側））の側溝蓋改修及び景観舗装工事を実施した。</p>			
事業形態	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input checked="" type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> その他（ ）委託先（有限会社 水野興業）			
新規・継続	継続	開始時期	平成21年4月	関連する事業局・事業内容 まちづくり局景観・まちづくり支援課（都市景観形成地区）
予算額	4,893,000（円）	決算額	3,969,000（円）	不用額 924,000（円）
不用の理由	入札の結果、工事委託料が当初の予定より低く抑えられたため。			

2 事業の成果

<p>（成果・成果物）</p> <p>◎高津大山街道の宗隆寺、溝口神社といった地域資源が集積している栄橋交差点から溝口駅入口交差点までの160m区間（宗隆寺、溝口神社側）について、側溝蓋の改修及び景観舗装を実施した。</p>	 <p>（側溝蓋改修後）</p>	 <p>（景観舗装完了後）</p>
--	--	---

3 事業評価

項目	コメント
事業内容の妥当性（必要性・公共性）	当該地域は都市景観形成地区に指定されており、大山街道の歴史的・文化的資源等と一体的に景観の質の向上を図る必要性が高い。また、道路幅員が狭いなか、比較的交通量が多いことから、歩行空間の安全性向上が求められている。これらの状況を踏まえ、区民協働で策定したMPにおいて本事業が位置づけられており、必要性、公共性ともに高い。
目標設定と達成度	平成22年度は、宗隆寺、溝口神社といった地域資源が集積しているキラリスポット1について、工事を設定した。平成23年1月末から約2週間かけて施工し、工事を完了した。
事業の効率性と費用対効果	平成21年度工事実施状況を踏まえ、水たまり発生の抑制を図りながら、みかげ風の色合いを出すため、工法を変更して実施した。平成23年3月、大山街道アクションフォーラムで区民に工事完了の報告をした際、昨年度実施した箇所より良くなったという声をいただいている。
協働の視点	工事施工前後に、地域の方々や団体等がMPの実現に向けて集まる大山街道アクションフォーラムにおいて、工事説明及び報告を行った。
環境配慮への視点	近隣住民に配布する工事のお知らせについて、再生紙を利用するとともに、無駄がでないよう計画的に配布を行った。

4 事業の方向性

次年度以降の事業計画	今後の事業展望と課題	優先度
<input checked="" type="checkbox"/> 見直し・改善の上継続 <input type="checkbox"/> 終了を見越して継続する <input type="checkbox"/> 現状どおり <input type="checkbox"/> 終了する	平成23年度は、光明寺があるキラリスポット4の側溝蓋改修及び景観舗装工事を実施する予定である。これまでに整備したキラリスポットとの整合を図りながら、より効果的な整備が実現できるよう、改めて工法の検討を行った上で実施する。	A

優先度が A：非常に高い、B：高い、C：高いとはいえない、－：終了


平成22年度 高津区協働推進事業 事業評価書

番号	事業名	所管課	担当者（連絡先）
	障害者・高齢者等要援護者支援のための防災対策事業	地域振興課	原山（044-861-3146）

1 事業概要

対象者	高津区民、障害者団体、災害時要援護者及びその保護者等	事業実施主体	地域ネットワーク推進会議、高津区
目的及び内容	地域に住まう災害時要援護者とともに、町内会・自治会をはじめとする地域の関係団体、関係機関が連携して防災シミュレーション訓練や、防災ボランティア要請などを行い、地域防災のあり方や災害時の要援護者支援方法について検討するとともに、障害についての理解促進を図る。		
事業形態	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input checked="" type="checkbox"/> 全部委託 <input checked="" type="checkbox"/> その他（協働型事業）委託先（地域ネットワーク推進会議）		
新規・継続	新規	開始時期	平成22年度
		関連する事業局・事業内容	
予算額	928,550（円）	決算額	815,753（円）
		不用額	112,797（円）
不用の理由	防災カレンダー作成にかかる印刷費が、当初の予定より安かったため。		

2 事業の成果

<p>(成果)</p> <p>事業のメインとなる防災シミュレーション訓練（10月30日開催。会場：県立高津養護学校）は台風だったにも拘らず120名の参加があった。</p> <p>(成果物)</p> <p>防災カレンダーを4,000部作成した。障害者団体・災害時要援護者の保護者支援者には地域ネットワーク推進会議から、町内（自治）会には高津区役所から配布予定。</p>	<p>(写真)</p>  <p>(防災訓練)</p>
---	--

3 事業評価

項目	コメント
事業内容の妥当性（必要性・公共性）	平成19年度から川崎市災害時要援護者避難支援制度が開始し、高津区においても災害時要援護者への支援は課題となっているものの、実際の活動については試行錯誤している状態であり、具体的な取組について検討が必要とされている。
目標設定と達成度	当初の予定通り講座や訓練を実施し、災害時要援護者に関する知識の啓発を図ることができた。特に10月のシミュレーション訓練には地元の町内（自治）会も参加し、避難所運営や要援護者支援について実際に体験すると共に、同じ参加者である要援護者やその保護者と交流し、理解を深めることができた。
事業の効率性と費用対効果	災害時要援護者の支援には、防災対策を検討することと共に、平常時からお互いに交流を深めておくことが重要であり、養護学校に通う児童・保護者や障害者団体と地元町内会が共に参加する講座や訓練を行ったことは、災害時要援護者支援の推進のため非常に効果的である。
協働の視点	要援護者及び保護者や障害者団体への連絡、要援護者支援の講座等の企画は地域ネットワーク推進会議が行い、地元の町内（自治）会との連絡調整は区役所で行うなど、それぞれの持つ特性やネットワークを生かして役割分担ができた。
環境配慮への視点	使用する用紙や封筒は再生紙を使用している。

4 事業の方向性

次年度以降の事業計画	今後の事業展望と課題	優先度
<input type="checkbox"/> 見直し・改善の上継続 <input type="checkbox"/> 終了を見越して継続する <input checked="" type="checkbox"/> 現状どおり <input type="checkbox"/> 終了する	<p>防災の取組は繰り返し行うことで効果が上がるため、来年度も今年度の結果を検証しつつ講座や訓練を行う。今年度は地元の町内（自治）会も参加したが、今後さらに参加者が増えることが望ましいため、広報に力を入れる必要がある。</p>	B

優先度が A：非常に高い、B：高い、C：高いとはいえない、－：終了


平成22年度 高津区協働推進事業 事業評価書

番号	事業名	所管課	担当者（連絡先）
	地域防災力向上事業	地域振興課	原山（044-861-3146）

1 事業概要

対象者	高津区民	事業実施主体	高津区
目的及び内容	避難所運営会議の活性化と会議構成員（地域住民等）一人一人の意識啓発を図り、地域の防災力を向上させることを目的とし、3年間で22箇所全ての避難所運営会議において（初年度の今年は7箇所）専門家による防災出前講座を実施する。		
事業形態	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input checked="" type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> その他（ ）委託先（財団法人市民防災研究所）		
新規・継続	新規	開始時期	平成22年
			関連する事業局・事業内容
予算額	777,000（円）	決算額	777,000（円）
		不用額	0（円）
不用の理由			

2 事業の成果

<p>（成果・成果物）※イベントの場合には、会場・日時・天気・参加人数を記載 今年度実施したのは下記の7箇所。</p> <p>7月 8日 東高津中学校（25人参加） 11月16日 東高津小学校（42人参加） 9月17日 下作延小学校（55人参加） 11月26日 坂戸小学校（29人参加） 10月 7日 東橋中学校（45人参加） 12月 2日 橘中学校（46人参加） 10月20日 野川小学校（41人参加）</p>	<p>（写真）</p> 
--	--

3 事業評価

項目	コメント
事業内容の妥当性（必要性・公共性）	地域防災力の向上は全市的な課題であり、平成21年度の「高津区区民生活に係るニーズ調査」においても「地震や風水害への対策」が3位に挙げられている。地域防災において重要となるのは自主防災組織や避難所運営会議だが、活動上の課題が多く休眠状態の会議も少なくないため活性化が必要である。
目標設定と達成度	当初の目標通り7箇所の会議で講座を開催し、地域住民に避難所運営について理解を深めてもらうことができた。また、日頃区で開催する防災の会議等には出席しない若い人や女性、学校関係者の参加もあり、地域防災力を向上する上で効果的だった。
事業の効率性と費用対効果	避難所運営会議を活性化させるためには、地域住民同士の連携を高めることと避難所運営に関する具体的な知識を深めることが大切である。実際に避難所となる学校を会場として、避難所運営会議単位で地域住民が集まり専門家の講義を受けることは、その両方の面で地域防災力向上のため非常に効果的である。
協働の視点	避難所運営会議の活動上の課題として、複数の町内会で構成されるため相互連携が困難ということがある。そのため町内会同士の連絡は区役所が行い、町内会内での参加者募集等は各町内会で行うなど、それぞれの特性に応じて役割を分担して講座を開催した。
環境配慮への視点	講座で使用する事務用品等は、環境配慮型商品を使用している。

4 事業の方向性

次年度以降の事業計画	今後の事業展望と課題	優先度
<input checked="" type="checkbox"/> 見直し・改善の上継続 <input type="checkbox"/> 終了を見越して継続する <input type="checkbox"/> 現状どおり <input type="checkbox"/> 終了する	<p>次年度は、避難所運営会議の組織化を図り、会議を開催する。引き続き、防災出前講座を開催し、情報発信をする。また、地域への避難所の鍵の配布、備蓄物資の避難所への有効な分散化を図る。さらに、「区医療救護所マニュアル」に基づいて、災害発生時に各組織が有機的に連携して避難所、救護所の開設・運営を可能にする為の研修会を保健福祉センターと連携して開催する。</p>	B

優先度が A：非常に高い、B：高い、C：高いとはいえない、-：終了